

之番

日

記

株田内

元治元年十一月廿一日  
同二年二月廿一日



御方御方

御方御方

御方御方

土月辰 暖 雨 夜 中 あり

一 五 時 頃 雨 止 雲 散 々

一 右 方 山 々 あり 雨 止 雲 散 々

雨 止 雲 散 々 あり 雨 止 雲 散 々

雨 止 雲 散 々 あり 雨 止 雲 散 々

雨 止 雲 散 々 あり 雨 止 雲 散 々

雨 止 雲 散 々 あり 雨 止 雲 散 々

雨 止 雲 散 々 あり 雨 止 雲 散 々

一 右 方 山 々 あり 雨 止 雲 散 々

雨 止 雲 散 々 あり 雨 止 雲 散 々

雨 止 雲 散 々 あり 雨 止 雲 散 々

多岐にわたり是れより北に延びて

十一 八の 敷土原 子と

一 寺山より大なる山脈を極  
中峰に右に照る極々々々々々  
左に照る極々々々々々々々々々

一 谷中より分岐 井井とていふ

十一 乃の 乃の 乃の 乃の

一 寺山より大なる山脈を極  
中峰に右に照る極々々々々々  
左に照る極々々々々々々々々々

一 寺山より大なる山脈を極  
中峰に右に照る極々々々々々  
左に照る極々々々々々々々々々

一 寺山より大なる山脈を極  
中峰に右に照る極々々々々々  
左に照る極々々々々々々々々々

十一 乃の 乃の 乃の 乃の

一 寺山より大なる山脈を極  
中峰に右に照る極々々々々々  
左に照る極々々々々々々々々々

申  
井  
古  
為  
原  
方  
所  
有

一、（？）  
一、（？）  
一、（？）

おれは賢いと思ふんやん  
梅子とてうらなひや

一、修之、す、我、亦、是、也、余、能、下、  
 又、之、と、言、ふ、と、亦、七、十、九、の、三、也、  
 又、之、と、言、ふ、と、亦、八、十、九、の、三、也、

[illegible]

土  
月  
酉  
子  
午  
而

[illegible][illegible]

才  
才  
才  
才  
才

[illegible]



一志爲玉玉玉後大なる物に居るやん  
沙後の何れも妙なりと云ふこと  
名あり

一、人々を以て其の長と短を論ずるは

一、  
...  
...

十  
辰  
星  
金  
星  
一

一、傷風感冒、喉痛、鼻水、目赤、口乾、舌燥、咽乾、咳嗽、痰多、氣喘、胸膈、痞滿、嘔吐、泄瀉、痢疾、疝氣、瘡毒、疥癩、濕疹、皮膚、瘙癢、婦人、經閉、帶下、產後、諸症、小兒、驚風、疳積、蟲積、一切、雜症、無不、神效、每瓶、銀錢、二文、大瓶、銀錢、五文、總發行所、東京、市、區、本町、二丁目、一、番、地、丸、井、堂、藥、房、謹、啟、

今更の母を以て一物に之を以て  
 子に之を以て

一、古詩云：『月出驚山鳥，時鳴春園中。』

[illegible]

土月 乙

一、五、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

[illegible][illegible]



子分

一、高古、古、新、物、之、法、也、

引心氣至氣少和。

所求復而養之乎所以方也

一十七日 少子病重 宜早治之 許去

之利母之方多矣

大正十一年

此乃井井之...

尺牘之方

14

一、拂水江中是也。月十六。

後少壯遊居十年不歸

古今圖書集成

止級令

ナリ子

一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、

一天朝日

一割之下情交而子以之為子則不

此乃長年所之少舞也

一、此書之出，實為海內外人士之幸。

之白雲多福之人法中經云云

44

土  
子  
不  
丑  
分  
第

十一年の  
早稲とて

一割之快

卷之五

馬代保年下夕時筆入

いゝなやうにさういふ

ナリ <sup>卯</sup> ねえまて

一 ちやうどおなじやうに

ふたつに分れて

いゝなやうに

ちやうどおなじやうに

ナリ <sup>辰</sup> ねえまて

一 ちやうどおなじやうに

ふたつに分れて

いゝなやうに

ナリ <sup>巳</sup> ねえまて

ナリ <sup>午</sup> ねえまて

ナリ <sup>未</sup> ねえまて

一 ちやうどおなじやうに

ふたつに分れて

いゝなやうに

ナリ <sup>申</sup> ねえまて

一 ちやうどおなじやうに

ふたつに分れて



以之爲  
以之爲

平

高古堂

一、夕に月をみれば、  
ふと代へて、  
あまたの  
人々を  
見し。あまたの  
人々の

July 10 1885

十一  
人々  
多  
知  
之  
也  
又

[illegible]

Handwritten: *Handwritten text, possibly a signature or name, written vertically.*

一々少くも場のりるやうな  
えらゐるもの場をわけていふ

25  
J. Wickham

土り子  
荒れ  
土荒れ

一、左  
食之、多  
之、多  
之、多  
之、多  
之、多

うきやう道草

一、  
新  
井  
山  
生  
機  
好  
也

554

一、少者多也。至者少也。故曰：少者多也。至者少也。與佛平來。

之部也

齊魯何如

古之或也と云々又云々

陽之氣

新地より三ヶ所中の一ヶ所を  
西中村と云ふ村あり

終り迄ち再付与を以て終り迄とす

乃而之乎

中出天女乃甲乙丙丁

右

齊東野語

卷之五

今更不

100

一 三つてんがきしやふふのうまを  
もてぬらうてけりうまの夕飯  
りー

十一 世 若

一 一つてんがきしやふふのうまを  
もてぬらうてけりうまの夕飯  
りー

一 七つてんがきしやふふのうまを  
もてぬらうてけりうまの夕飯  
りー

一 一つてんがきしやふふのうまを  
もてぬらうてけりうまの夕飯  
りー

一 一つてんがきしやふふのうまを  
もてぬらうてけりうまの夕飯  
りー

一 一つてんがきしやふふのうまを  
もてぬらうてけりうまの夕飯  
りー

十二 世 若

一 一つてんがきしやふふのうまを  
もてぬらうてけりうまの夕飯  
りー

土里土石

一、此書之價值與否，全視其內容之如何而定。

[illegible]

土  
下  
辰

之

一、  
諸君の意見は如何なるか  
又、  
此等之を以てして

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

十一

多如電云云斗  
修其者移其  
子以之

一 修市<sup>記</sup>の年  
一 壬子年

御手かきさうしうてし御座りてを  
と御座りてをさうしう

幸り4の世なり細かなる

御座りてをさうしう

一 御座りてをさうしう

一 御座りてをさうしう

一 御座りてをさうしう

一 御座りてをさうしう

一 御座りてをさうしう

一 御座りてをさうしう

一 御座りてをさうしう

一 御座りてをさうしう

一 御座りてをさうしう

一 御座りてをさうしう

一 御座りてをさうしう

一 御座りてをさうしう

一 御座りてをさうしう

一 御座りてをさうしう

高●中庭より所おちて  
夕陽の物影の上より一羽の鳥  
掃き長短の一羽の鳥  
いふやうに

去りて  
夕陽の物影の上より一羽の鳥  
掃き長短の一羽の鳥  
いふやうに

一羽の鳥の上より一羽の鳥  
掃き長短の一羽の鳥  
いふやうに

一羽の鳥の上より一羽の鳥  
掃き長短の一羽の鳥  
いふやうに

土  
掃き長短の一羽の鳥  
いふやうに

一羽の鳥の上より一羽の鳥  
掃き長短の一羽の鳥  
いふやうに

一羽の鳥の上より一羽の鳥  
掃き長短の一羽の鳥  
いふやうに

[illegible]





去一ノノノノ

一可也方乃能之...  
之解難者...  
之解難者...

一風邪...  
之解難者...

一柳田...  
之解難者...

去一ノノノノ

之解難者...

一...  
之解難者...

一...  
之解難者...

一...  
之解難者...

一...  
之解難者...

三行 己 水 ね 雲 くも 夕 ゆふ 暮 くれ 不 ふ 満 まん 瘧 さつ

[illegible]

土 年  
丁巳年

一、何事をいふ年輩中し、言ひはけ  
くもさくらさうつけくちとて、か  
きぬみりせといへど、あつたのち、  
ちよと、柳子く入るるとなり。  
所はわらわち、おれに、こゝろを、  
まじり、ちよと、おれに、

[illegible]

一、ちんぎんを、お下するは、新島に  
すべし。その時、ついであることを、  
よりよく知て置く。

所々、其の如きものあり。

三ノ里ノ山ノ多クハ山ノ多クハ

一ノ里ノ山ノ多クハ山ノ多クハ

一ノ里ノ山ノ多クハ山ノ多クハ

一ノ里ノ山ノ多クハ山ノ多クハ

一ノ里ノ山ノ多クハ山ノ多クハ

一ノ里ノ山ノ多クハ山ノ多クハ

一ノ里ノ山ノ多クハ山ノ多クハ

一ノ里ノ山ノ多クハ山ノ多クハ

一ノ里ノ山ノ多クハ山ノ多クハ

一ノ里ノ山ノ多クハ山ノ多クハ

一ノ里ノ山ノ多クハ山ノ多クハ

名取三井年々

山りる

一、天のやうな天のやう

一、天のやうな天のやう

一、天のやうな天のやう

一、天のやうな天のやう

一、天のやうな天のやう

一、天のやうな天のやう

一、天のやうな天のやう

一、天のやうな天のやう

一、天のやうな天のやう

一、天のやうな天のやう

一、天のやうな天のやう

一、天のやうな天のやう

一、天のやうな天のやう

一、天のやうな天のやう

一、天のやうな天のやう

一、天のやうな天のやう



正  
り  
き

天年

[illegible]

一、砂井沙公史郎佐々木五郎  
 井上孝之丞儀一左衛門次子  
 孝之丞和年而一青二下通  
 以物多之地振出し振多之入部石  
 久人、らゝふゝゝゝ或ハ振多ふゝゝ  
 らゝゝ振多ふゝゝゝ境外ハ以迄  
 昌義

正リチ

辛卯刻之

一、少額開防の爲に之に下り

海寧

[illegible]

中

八分書

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

[illegible]

一、  
二、  
三、

[illegible][illegible][illegible]

梁詠如

アリカ  
子孫

[illegible]

一 抄 手 之 事 公 花 之 者 之 所 主 了 新 便 了  
 所 之 處 之 公 花 之 者 之 所 主 了 新 便 了  
 之 所 主 了 新 便 了

心  
十  
年  
後  
子  
三

一、送書女  
一、常事

末

中  
平  
石  
吊  
噴  
子  
夕  
幸  
下  
不

新白より 申すに 常りあり  
 一ノ入る 了る 所 常りあり 也  
 常りあり 也

而  
之

一、村山巴系倒立をとり、種族の衰へるを恐るる  
 所、日輪の月千里の歩程に或る人、此の地を  
 歩む所、力なきを以て、

一、節、以、所、得、之、利、日、以、爲、年、稅、金、而、充、之、  
 二、節、以、所、得、之、利、日、以、爲、年、稅、金、而、充、之、  
 三、節、以、所、得、之、利、日、以、爲、年、稅、金、而、充、之、  
 四、節、以、所、得、之、利、日、以、爲、年、稅、金、而、充、之、  
 五、節、以、所、得、之、利、日、以、爲、年、稅、金、而、充、之、

一 此邦の今度ある修傷を以て  
万幸れとて之を明かに包む



計りし事...  
...  
...

一 此等事...  
...

一 此等事...  
...

一 此等事...  
...

一 此等事...  
...

一 此等事...  
...

一 此等事...  
...

一 此等事...  
...

一 此等事...  
...

高年

一 此等事...  
...

一 此等事...  
...

一 此等事...  
...

一 此等事...  
...

一 此等事...  
...

一 此等事...  
...

一 此等事...  
...

一 此等事...  
...







一 明もあらなふに能くあり

一 何れもあらなふに能くあり

一 何れもあらなふに能くあり

一 何れもあらなふに能くあり

一 何れもあらなふに能くあり

一 何れもあらなふに能くあり

一 何れもあらなふに能くあり

一 何れもあらなふに能くあり

一 何れもあらなふに能くあり

一 何れもあらなふに能くあり

一 何れもあらなふに能くあり

一 何れもあらなふに能くあり

一 何れもあらなふに能くあり

一 何れもあらなふに能くあり

一 何れもあらなふに能くあり

一 何れもいふ事なくして

一 何れもいふ事なくして

一 何れもいふ事なくして

一 何れもいふ事なくして

一 何れもいふ事なくして

一 何れもいふ事なくして

一 何れもいふ事なくして

一 何れもいふ事なくして

一 何れもいふ事なくして

一 何れもいふ事なくして

一 何れもいふ事なくして

一 何れもいふ事なくして

一 何れもいふ事なくして

一 何れもいふ事なくして

一 砂手板の如く...  
二 二...  
三...

一 江戸...  
二 江戸...  
三...

一 江戸...  
二 江戸...  
三...

一 江戸...  
二 江戸...  
三...

一 江戸...  
二 江戸...  
三...

一 江戸...  
二 江戸...  
三...

一 江戸...  
二 江戸...  
三...

一 江戸...  
二 江戸...  
三...

二  
エ

夜を起し見ゆるなり

一 ちやうどと  
一 ちやうどと  
一 ちやうどと

一 二倍と  
一 二倍と  
一 二倍と

一 倍と

一 倍と

一 倍と  
一 倍と  
一 倍と

一 倍と  
一 倍と  
一 倍と

一 倍と  
一 倍と  
一 倍と

二  
リ

一 倍と

一 倍と  
一 倍と  
一 倍と

一 倍と  
一 倍と  
一 倍と

一 倍と  
一 倍と  
一 倍と

二  
リ

一 倍と

一 倍と  
一 倍と  
一 倍と





二、上

（右）  
（左）

一、  
（右）  
（左）

一、  
（右）  
（左）

一、  
（右）  
（左）

一、  
（右）  
（左）

一、  
（右）  
（左）

一、  
（右）  
（左）

一、  
（右）  
（左）

一、  
（右）  
（左）

一、  
（右）  
（左）

一、  
（右）  
（左）

一、  
（右）  
（左）

一、  
（右）  
（左）

一、  
（右）  
（左）

一、  
（右）  
（左）

一、  
（右）  
（左）

一、  
（右）  
（左）

一、  
（右）  
（左）

一、  
（右）  
（左）

一、  
（右）  
（左）

一、  
（右）  
（左）

一、  
（右）  
（左）

一、  
（右）  
（左）

一、  
（右）  
（左）

一、  
（右）  
（左）

一、  
（右）  
（左）

一、  
（右）  
（左）

一、  
（右）  
（左）

一、  
（右）  
（左）



一  
三  
五  
七  
九  
十一  
十三  
十五  
十七  
十九  
二十一  
二十三  
二十五  
二十七  
二十九  
三十一  
三十三  
三十五  
三十七  
三十九  
四十一  
四十三  
四十五  
四十七  
四十九  
五十一  
五十三  
五十五  
五十七  
五十九  
六十一  
六十三  
六十五  
六十七  
六十九  
七十一  
七十三  
七十五  
七十七  
七十九  
八十一  
八十三  
八十五  
八十七  
八十九  
九十一  
九十三  
九十五  
九十七  
九十九  
一百

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

[illegible]

一、此は小結なりと云ふ右結を考へて此の如し  
 書りし中より元形明かりし處を左に結なり  
 左に右結と云ふを介するを、右の如きと云ふ  
 以て右結なりと云ふ右結を介するを、右の如き  
 右に右結なりと云ふ

二月廿五日

一、苦、以、何、爲、者、

卷之四

二  
十  
九  
十  
八  
七  
六  
五  
四  
三  
二  
一

李月仙

[illegible][illegible][illegible]



[illegible][illegible]

下戌 卷之四 學問類

一妙えはむるも年々来るを其外成る

一、其高十丈，分三層，每層各有一門。

一 砂中より土中へ砂を移す。土中へ砂を移す。土中へ砂を移す。

一、此乃諸子之辭。其後。整分作之。  
其。凡。見。之。者。代。是。者。凡。之。者。凡。之。者。  
一、此乃諸子之辭。其後。整分作之。  
其。凡。見。之。者。代。是。者。凡。之。者。凡。之。者。

二  
リ  
一  
口  
途  
中  
少  
く  
三  
つ  
の  
所  
を  
通  
る

方々々々

[illegible]

一、  
...  
...  
...  
...  
...







乙

申

一 乙卯年

一 乙卯年

一 乙卯年

一 乙卯年

一 乙卯年

乙卯年

乙卯年

一 乙卯年

一 乙卯年

一 乙卯年

一 乙卯年

乙卯年

乙卯年

乙卯年

一 乙卯年

一 乙卯年

一 乙卯年

一 乙卯年

一 乙卯年





一 修品不凡 却伊亦佳 身他行 一々々々  
更 修品不凡 却伊亦佳 身他行 一々々々

修  
以  
正  
之  
所  
由  
也

[illegible]

子年  
壬午

一、此乃以爲 亦不其然哉 何止凡

一、在...  
井.

三十一

一、（イ）  
一、（ロ）

一、漢文を習得する

一節 皇太子の死を二宮主君に命じて葬務

少子侯爵閑所近道町

くはちてしりくふきし旦有爲國所ヲ爲す

ちを以て種をいへりしと云ふは、今も其の如く人々を以て

古くは、  
右に人々  
新嘉坡  
海峽植民地  
の、  
とらふ

作江之成各張其子

市  
 下  
 三  
 ち  
 リ  
 の  
 名  
 こ  
 の  
 江  
 ち  
 林  
 江  
 の  
 柳  
 少

德至... 方元...

上卷

五形宮の御宇に於ては、  
御宇に於ては、

市 子

下圖之系以七病乎平急也

卷之八

浮く方々より来る人々

卷之四

三子付酒中。大和。小口。子。下。廿。五。也。小。懷。症。全。愈。了。

湯澤村邊系、平西抗聯支隊、及東北抗聯支隊、

足下中世の  
明日の夕

抄るにすゝぬ王名を記し一五方名又諸王

續子午抄出五子午抄

石を中より取り出し、井戸の中へ入れ、井戸の水を  
おろし、井戸の水を飲む。井戸の水を飲む。井戸の水を飲む。

一、あそびのあそび

一、あそびのあそび

一、あそびのあそび

一、あそびのあそび

堂前法門

一、あそびのあそび

あそびのあそび

あそびのあそび

あそびのあそび

あそびのあそび

